

農業経営基盤強化促進法第 1 8 条第 1 項の規定に基づき、公表します。

天草市長 馬場 昭治

市町村名 (市町村コード)		天草市 (432156)
地域名 (地域内農業集落名)		下浦・志柿
協議の結果を取りまとめた年月日		令和 7 年 1 月 2 7 日 (第 1 回)

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

地域内の農用地等面積（農業上の利用が行われる農用地等の区域）	49. 2ha
農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	49. 2ha

(2) 地域農業の現状と課題

天草地域のミカンの発祥地でもある本地区においては、ポンカンに代表される柑橘類を筆頭に、水稻、かんしょ、野菜などが生産されている。しかし、中山間地域における、急傾斜地の果樹栽培地は狭小であり、耕作用道路は狭いうえに少ない等の条件不利地が多い。近年は農業後継者や新規就農者が少なく、農業従事者の高齢化が原因で農業生産力が衰退し、耕作放棄地・鳥獣被害の増加による生産性の低下などが懸念されている。農業の有する多面的機能を将来にわたって発揮していくためには、基盤整備事業を推進することで、効果的な農地の集積及び農産物生産性の向上や、担い手の確保等のほか安定供給に期待している。
--

(3) 地域における農業の将来の在り方（作物の生産や栽培方法については、必須記載事項）

中山間地域等直接支払制度の構成員等を中心として、地域の内外から農地を利用する担い手や雇用就農者を確保し、農地の集積・集約化を進める。 天草地域のミカンの発祥地でもある本地区は、中山間地域等直接支払制度の構成員等が中心となり、農業機械や施設などを導入し、効率的な農業生産を行っているが、地域内の経営体も高齢化が進んでおり、今後は基盤整備事業等を積極的に取り入れ、農地の大区画化や平坦地化を行い、併せて農道（園内道路）なども一体的に整備し、営農に起因するコスト削減を図ることで、現況の担い手のほかに新たな担い手の参入や、持続性のある営農を目指す。
--

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1) 農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針
基盤整備事業等を積極的に取り入れ、農地の大区画化や平坦地化を行い、併せて農道（園内道路）なども一体的に整備し、営農に起因するコスト削減を図ることで、現況の担い手のほかに新たな担い手の参入や、持続性のある営農を目指し、地域の内外から農地を利用する者を確保し、集落全体で支援体制を構築することで営農の定着を促進する。
(2) 農用地の集団化（集約化）に関する目標
担い手が利用する農地面積は49. 2ha（令和6年度時点） 基盤整備事業等を積極的に取り入れ、農地の大区画化や平坦地化を行い、後継者不在の農地を担い手に集積することで、担い手が利用する農地面積増加を進める。（令和7年度から）

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置（必須項目）

（１）農用地の集積、集団化の取組
農地中間管理機構を活用しながら、認定農業者や新規就農者等を中心に担い手への農地集積を進める。
（２）農用中間管理機構の活用方法
農地中間管理機構を活用し、担い手の経営意向を集約しながら段階的に集積・集約化を進める。
（３）基盤整備事業への取組
現在、下浦・志柿地区で営農をしている地元果樹農家を中心に、樹園地を団地化する目的を持った基盤整備事業推進委員会を発足し、基盤整備事業実施に向けて取り組んでいる。
（４）多様な経営体の確保・育成の取組
農業参入を希望する個人や法人については、農業委員会、農業協同組合、土地改良区及び天草市担い手育成支援協議会等と連携して、地区内外からの多様な経営体を地区へ呼び込み、地域全体で栽培技術や生産活動など、新たな担い手の育成を行う。
（５）農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の取組
作業効率化が期待できる草刈り、防除等の作業の共同化や、農作業の受委託等を中山間地域等直接支払制度の活動を中心に進めていく。

以下任意記載事項（地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください。）

☒	①鳥獣被害防止対策		②有機・減農薬・減肥料		③スマート農業		④輸出	☒	⑤果樹等
	⑥燃料・資源作物等	☒	⑦保全・管理等	☒	⑧農業用施設		⑨その他		
【選択した上記の取組内容】 ①イノシシ被害が拡大しないように必要に応じて防護柵を設置する。 ⑤、⑦、⑧樹園地を中心に基盤整備事業を取り組み、農道（園内道路）の拡充や農地の大区画化を図り、作業機械の導入や保全管理の容易さ等を目指す。									